

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 17 日現在

機関番号：82621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350033

研究課題名(和文) 20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国とのデザイン/工芸の交流

研究課題名(英文) Mingling Design and Craft in Japan, China, Taiwan and Korea in the first half of the 20th century

研究代表者

木田 拓也 (Kida, Takuya)

独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・その他部局等・主任研究員

研究者番号：40300694

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀前半のデザイン・工芸をめぐる日本と東アジア(中国、台湾、韓国)における交流の軌跡を追跡し、日本という枠組みを超えた東アジアデザイン史の構築の可能性を探った。日本が東アジア圏へと版図を拡大した20世紀前半、日本という枠組みを超えて行われた調査、発掘、展覧会、博覧会、教育機関など(具体的には、古陶磁の研究と収集、満鉄の中央試験所、楽浪遺跡などの発掘、朝鮮博覧会、台湾博覧会、朝鮮美術展、北京生活学校などを取り上げた)を通じて行われたヒトとモノの交流について追跡した。

研究成果の概要(英文)：This research groped for the possibility of building East-Asian design history through tracking footsteps of mingling design and craft in Japan, China, Taiwan and Korea in the first half of the 20th century.

We traced back people and material exchange within Eastern Asia through focusing on academic research, excavation, exposition, educational institutions (research and collection of ancient oriental ceramics, Central Research Laboratory of the South Manchuria Railway Company, excavation of Le-lang, Choseon Exposition, Taiwan Exposition, Choseon Art Exhibition, Jiyu Gakuen Beijing School ...).

研究分野：工芸史、デザイン史

キーワード：デザイン史 工芸史 東アジア 植民地 博覧会 発掘 収集

### 1. 研究開始当初の背景

本申請の研究代表者(木田拓也)と分担者(井口壽乃、菅靖子)のグループは、デザイン史の分野に「東アジア」という新しい枠組みを作りだすことを目標に掲げ、「東アジア地域のデザインにみる交流に関する歴史的研究:中国・台湾・韓国・日本」(挑戦的萌芽研究、H23~25)というテーマで、東アジアにおけるデザインに関する調査研究に過去三年間取り組んできた。研究代表者が企画した「越境する日本人:工芸家が夢見たアジア 1910s - 1945」展(平成 24 年、東京国立近代美術館工芸館)はその成果を反映するものだが、その他の個別研究としては、例えば、朝鮮や台湾における博覧会(井口)、中国北京における自由学園による工芸教育(菅)、朝鮮総督府主導で行われた朝鮮美術展の工芸部(木田)、中国・朝鮮を旅行した工芸家(木田)などをテーマとして取り上げ、1910~40 年代における日本と東アジアの工芸とデザインをめぐる交流を追跡してきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、20 世紀前半の東アジア圏(日本、台湾、韓国、中国)におけるデザインおよび工芸を通じた交流を明らかにすることを目的とする。20 世紀前半の東アジアにおいては、日本の版図拡大に伴い、留学、調査旅行、発掘、博覧会、教育研究機関などを通じたヒトの交流、そして、コレクション、展覧会、売立、百貨店などを通じたモノの交流が東アジア圏内において、日本を基軸として活発に行われていた。本研究では、20 世紀前半の東アジア圏におけるデザイン・工芸をめぐるさまざまなレベルの交流を通じて、東アジアにおける工芸、デザインの近代化の軌跡を追跡し、東アジア・デザイン史の構築に向けた基本的な枠組みを提示することをめざした。

### 3. 研究の方法

本研究では、韓国、台湾、中国にて調査を行うとともに、研究会や国際会議への参加を通じて研究発表を行い、韓国、台湾、中国のデザイン史研究者とのネットワークの構築、および、意見交換を行った。

1 年目の平成 26 年 4 月、井口は台湾で調査を行った。さらに、同年 5 月、井口は大阪の博覧会アーカイブで資料調査を行った。平成 26 年 5 月には、木田がセインズベリー日本芸術研究所にて開催された国際研究会 Ceramics, Art, and Cultural Production in Modern Japan にて研究発表を行った。また同月、ロンドンのデザイン・ミュージアムで開催された国際シンポジウム 1920-45 Inter-Asia Design Assimilation: Translations, Differentiations and Transmission に本研究メンバー 3 名(木田、井口、菅)が参加した。同年 11 月には中国社会科学院および清華大学において国際シンポジウム「近代日本美術史と近代中国」が

行われ、木田が参加した。さらに、平成 27 年 3 月にアメリカのシカゴで開催された Association for Asian Studies(AAS)の年次大会において木田がパネル発表を行った。

2 年目の平成 27 年 8 月、アメリカのマサチューセッツ大学アマス校のクリスティーン・ホ氏を迎えて戦前期に日本に留学した中国人図案家を通じて日中間の図案研究についての研究会を行った。同年 10 月、木田は韓国国際交流財団主催の「博物館学芸員ワークショップ」に参加し、研究発表を行った。同年 11 月、菅はブライトン大学(イギリス)の国際シンポジウム Internationalising Design History にて研究発表を行った。平成 28 年 1 月、木田は展覧会「ようこそ日本へ: 1920-30 年代のツーリズムとデザイン」を企画し展覧会カタログを編集執筆した。井口は台湾において、日本統治時代の台湾航路に関する資料調査を行った。平成 28 年 3 月、木田は大連と旅順にて調査を行った。

3 年目の平成 28 年 6 月、木田は同志社大学で開催された国際会議 AAS-in Asia にて研究発表を行い、12 月にはデザイン史学会でも研究発表を行った。また、10 月、台北の国立台湾科技大学を会場に Making Trans/National Contemporary Design History というテーマを掲げて第 10 回国際デザイン史学会議(ICDHS)が開催され、本研究メンバー 3 名は、パネル・セッション「東アジアの植民地のモダニティ 1910s-1945: ビジュアル・デザイン、ファッション、工芸」(East Asian Colonial Modernity 19102-1945: Visual Design, Fashion and Craft)を行った。

### 4. 研究成果

日本が東アジア圏へと版図を拡大した 20 世紀前半、日本という枠組みを超えて行われた調査、発掘、展覧会、博覧会、教育機関など(具体的には、古陶磁の研究と収集、満鉄の中央試験所、楽浪遺跡などの発掘、朝鮮博覧会、台湾博覧会、朝鮮美術展、北京生活学校などを取り上げた)を通じて行われたヒトとモノの交流など、本研究グループのメンバーそれぞれの専門と関心に基づいていくつかの事例を取り上げ、個別研究を進めたが、研究会や国際シンポジウム、また国際学会などで共通のパネルを組むという形で展開することができた。

なお、本研究では、20 世紀前半のデザイン・工芸をめぐる日本と東アジア(中国、台湾、朝鮮)における交流の軌跡を追跡し、日本という枠組みを超えた東アジア・デザイン史の構築の可能性を探ったが、国際シンポジウムや国際学会などへの参加を通じ、同じような課題に取り組んでいるイギリス、アメリカ、韓国、台湾などの研究者との交流が生まれた。

なお、本研究を通じての研究発表については、以下の「5. 主な発表論文等」記載の雑

誌論文や学会発表があるほか、本研究の参加メンバー3人の論考が、2018年に英文で刊行される予定の「東アジア・デザイン史学論選集」(仮題)に収録される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

木田拓也「板谷波山がめざしたもの」『出光美術館報』第167号、2014年5月、4-27頁。

木田拓也「昭和戦前期の日韓交流：越境する日本人展をふりかえって」『2015日本の博物館学芸員ワークショップ』、2015年10月5日、韓国国際交流財団、11-13頁。

木田拓也「工芸家が夢みたアジア：<東洋>と<日本>のはざままで」『SGRAレポートNo.72第8回SGRAチャイナフォーラム 近代日本美術史と近代中国』2015年10月20日、渥美国際交流財団関口グローバル研究会、20-32頁。

木田拓也「近代日本における<工芸>ジャンルの成立：工芸家がめざしたもの」『SGRAレポートNo.72第8回SGRAチャイナフォーラム 近代日本美術史と近代中国』2015年10月20日、渥美国際交流財団関口グローバル研究会、50-62頁。

木田拓也「ようこそ日本へ 日本の『自画像』としての観光ポスター」『ようこそ日本へ 1920-30年代のツーリズムとデザイン』東京国立近代美術館、2016年1月9日、6-10頁。

木田拓也「万博にみられる日本陶磁の正統：フィラデルフィア万博(1876年)とパリ万博(1878年)における日本陶磁史のプレゼンテーション」『ジャポニスム研究第35号別冊』ジャポニスム学会、2016年3月31日、67-76頁。

木田拓也「工芸家夢想中的亜州」『東北亜外語研究』Vol. 4, No.2, June 2016, pp. 10-18、宋剛訳。

木田拓也「大連における中国陶磁の研究：大正期の小森忍と匋雅会のネットワーク」『東京国立近代美術館研究紀要』第21号、東京国立近代美術館、2017年3月31日、6-34頁、査読有。

[学会発表](計21件)

KIDA, Takuya, 'Koyama Fujio's View of Contemporary Ceramics: A Man Who Made "Living National Treasure"', Ceramics, Art, and Cultural Production in Modern Japan, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, Norwich, England, 23 May 2014.

KIDA, Takuya, 'Transplanting the Concept of Art-Crafts (*bijutsu-kogei mi-sul-gong-ye*) from Japan to Korea in the 1930s,' 1920-45 *Inter-Asia Design*

*Assimilation: Transplantation, Differentiations and Transmission*, Design Museum, London, May 30, 2014.

IGUCHI, Toshino, 'Advertising and display design in colonial exposition in Korea and Taiwan during the Japanese rule,' 1920-45 *Inter-Asia Design Assimilation: Transplantation, Differentiations and Transmission*, Design Museum, London, May 30, 2014.

SUGA (IDA), Yasuko, 'Craft Activism in Asian Colonial Modernity? Jiyu Gakuen Beijing School, 1938-1945,' 1920-45 *Inter-Asia Design Assimilation: Transplantation, Differentiations and Transmission*, Design Museum, London, May 30, 2014.

木田拓也「工芸家が夢みたアジア：<東洋>と<日本>のはざままで」近代日本美術史と近代中国、中国社会科学院文学研究所(北京)、2014年11月22日。

木田拓也「近日本における<工芸>ジャンルの成立：工芸家がめざしたもの」近代日本美術史と近代中国、清華大学(北京)、2014年11月23日。

木田拓也「小山富士夫の現代陶芸へのまなざし：古陶磁と伝統工芸のはざま」東洋陶磁学会平成26年度第5回研究会、学習院大学、2015年1月10日。

KIDA, Takuya, 'The Formation of the Concept "Oriental Ceramics" (*Toyo-toji*): The Collection and Research of Chinese and Korean Ceramics in Japan 1920s-30s,' Association for Asian Studies Annual Conference, Sheraton Chicago, Chicago, Illinois, USA, March 28, 2015.

木田拓也「亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博」生誕100年亀倉雄策展講演会、新潟県立万代島美術館、2015年8月8日。

木田拓也「桃山復興と魯山人」魯山人の宇宙展記念講演会、高岡市美術館、2015年10月3日。

木田拓也「昭和戦前期の日韓交流：越境する日本人展をふりかえって」2015日本の博物館学芸員ワークショップ、韓国国際交流財団(ソウル)、2015年10月5日。

SUGA (IDA), Yasuko, 'The Last Stand for Japanese Crafts? Design History Behind Bars,' International Design History, University of Brighton, UK, November 12, 2015.

SUGA (IDA), Yasuko, 'Japonisme and Plants in Interior Decoration,' International Design History, University of Brighton, UK, November 13, 2015.

木田拓也「万博にみられる日本陶磁の正統：ジャポニスム時代の古陶磁のプレゼンテーション」ジャポニスム学会第5回岡山公開シンポジウム「KOGEIとジャポニスム：産業と芸術で見直す近代」、帝京大学霞ヶ関キャン

パス、2015年11月28日。

木田拓也「工芸の源流を求めて 中国・朝鮮に渡った工芸家」『日本工芸の100年』展記念講演会、岡山市オリエント博物館、2016年6月11日。

KIDA, Takuya, 'Modern Chinoiserie in Manchuria: Reviving Ancient Chinese Ceramics in the 1910-20s,' *The Politics of Ornament: Ideology, Transnationalism, and Modern Design*, AAS-in-ASIA Conference, Doshisha University, June 26, 2016.

KIDA, Takuya, 'Looking for Design Resources in China: Traveling Japanese Potters in the 1920s-1930s,' *East Asian Colonial Modernity 1910s-1945: Visual Design, Fashion and Craft*, 10th Conference of the International Committee for Design History & Design Studies (ICDHS 2016), National Taiwan University of Science and Technology, Taipei, Taiwan (国立台湾科技大学), 26 October, 2016.

IGUCHI, Toshino, 'Visual design in colonial Taiwan during Japanese rule,' *East Asian Colonial Modernity 1910s-1945: Visual Design, Fashion and Craft*, 10th Conference of the International Committee for Design History & Design Studies (ICDHS 2016), National Taiwan University of Science and Technology, Taipei, Taiwan (国立台湾科技大学), 26 October, 2016.

SUGA (IDA), Yasuko, 'Craft and Gender in Asian Colonial Modernity-Jiyu Gakuen Beijing School, 1938-45,' *East Asian Colonial Modernity 1910s-1945: Visual Design, Fashion and Craft*, 10th Conference of the International Committee for Design History & Design Studies (ICDHS 2016), National Taiwan University of Science and Technology, Taipei, Taiwan (国立台湾科技大学), 26 October, 2016.

木田拓也「東アジアに源泉を求めて：小森忍の大連 1917-1928」デザイン史学研究会第34回研究発表会、麗澤大学東京研究センター、2016年12月3日。

KIDA, Takuya, 'Potter's Environment around 1920: When Gurucharan Singh Was in Japan,' *Asian Dialogues: Gurcharan Singh an Indian Potter in Japan, An Seminar on Cultural and Intellectual Exchange Between India and Japan*, Government Museum and Art Gallery Chandigarh, March 28, 2017.

〔図書〕(計2件)

木田拓也『工芸とナショナリズムの近代：「日本的なもの」の創出』吉川弘文館、2014年8月10日、単著、全250頁。

木田拓也『ようこそ日本へ 1920-30年代のツーリズムとデザイン』東京国立近代美術館、2016年1月9日、編著、全100頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木田拓也 (KIDA Takuya) 独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館主任研究員、研究者番号：40300694

### (2) 研究分担者

井口壽乃 (IGUCHI Toshino) 埼玉大学人文社会科学研究科教授、研究者番号：00305814

菅 (井田) 靖子 (SUGA Yasuko) 津田塾大学学芸学部准教授、研究者番号：20312910